

絵馬 田村將軍蝦夷退治図 一面

所有者 観音寺



所在地

伊達郡桑折町

大字万正寺字

坂町二十番地

『田村將軍蝦夷退治図』は横二メートルに及ぶ県北最大の長方形の大絵馬である。煤により朽損褪色があるが剥落は少ない。

下方に水辺が図示され、画面の大部分は騎馬武者が賊と決闘を交えている合戦絵図で、上部中央に飛雲にのる仏菩薩が見える。観音菩薩の加護により田村麻呂將軍が蝦夷退治をしたという観音御利益縁起図である。「奉納御宝前 諸願成就所 久保政信敬白」、「元禄十六年霜月一七〇三」の願文款識があり、右下方に筆者名が見えるが明らかでない。

寸法 縦百五十七

センチメートル

横二百

センチメートル

トル

あと



○ 九月。陰曆九月は、異称長月。九夏・九暑を経て九秋の候といいたところだが、今年は冷夏。

○ そもそも九は、人がひじを曲げた象形。ひじが曲がってつかえるところから、数の九は、一から数えて九でつかえて進めず、折り返すことを意味するそうだ。

○ 児童生徒の九月の折り返しが、うまくいくように折りたい。

○ また、九に人が関係すると仇。心を一につに引き締めて合わせる意がある。教師と子供との心のふれあい——教師は子供にとつてのキユー・ピッドであつて欲しいといったら叱られるだろうか。

○ きゅう（机右）の銘、「燈火親しむべし」は、韓愈の古くて新しい言。秋の夜長に、映像を離れて、ゆっくと文字をひろつてみたいものである。きゅう（杞憂）のない明日の糧のために。（ひ）